

「北海道縦貫自動車道 士別市～稚内市間 きた北・北海道高速交通フォーラム」が開催されました

10月14日（木）に幌延深地層研究センター国際交流施設において、「北海道縦貫自動車道 士別市～稚内市間 北(きた)・北海道高速交通フォーラム」（以下「フォーラム」という。）が開催されました。

現在工事が進められている「音威子府バイパス（音威子府村～中川町間）」は、令和7年度に開通の見通しとされていますが、引き続き道北地域で切れ目ない道路整備に向けた機運を醸成することを目的として、北・北海道高速交通フォーラム実行委員会（構成団体：北★北海道に高速道路を実現する会、未来のくらしと宗谷路（ネットワーク）を考える会、留萌地域の交通ネットワークを考える会）、北海道高速自動車道国道旭川名寄間建設促進期成会、北海道開発幹線自動車道道北建設促進期成会、北海道高速道路建設促進期成会および一般国道40号名寄・稚内間整備促進期成会の主催のもと、開催地である幌延町が共催して開催し、沿線自治体の首長のほか、国、北海道、近隣自治体関係者および民間団体関係者などが一堂に会しました。

フォーラムでは、主催者である北・北海道高速交通フォーラム実行委員会の久手剛会長の挨拶に続き、来賓挨拶が行われました。

基調講演では「未来の道北の交通ネットワークをどうするか？」と題して、北海道大学公共政策大学院の岸邦宏教授から、高規格道路の果たす役割、国内と海外の道路情勢の比較のほか、JR宗谷線を含めた都市間交通から地域交通を含む交通ネットワークの形成などについて貴重なお話をいただきました。

また、地域からの提言として、幌延町商工会松永継男会長が医療・産業・観光・防災面について、自身の経験も交えながら道北地域における規格の高い道路整備の必要性を力強く訴えました。

一般国道40号名寄・稚内間整備促進期成会では、名寄以北の3つのミッシングリンク区間の内、沿線地域の総意として「中川～天塩間」の整備について、早期に高規格道路の整備を進める区間としており、地域一丸となった要望活動を進めることとしています。



来賓挨拶を行う野々村町長（左）と地域からの提言を行う商工会長 松永氏（右）



講演を行う北海道大学公共政策大学院 岸教授



フォーラム会場の様子